

国際協力・NGO 活動担い手育成事業評価委員会
委員長 津島 朋憲

1. 事業名・主催

事業名：2006 年度 国際協力・NGO 活動担い手育成事業（以下、本事業と略す）

主 催：（特活）NGO 福岡ネットワーク（以下、FUNN と略す）

2. 背景

貧困、人権、環境、平和など地球規模で取り組まなくてはならない課題は増加の一途をたどっている。これらの課題に対して、市民はこれまで NGO 活動を通して、あるいは政府機関、国際機関に働きかけて精力的に取り組んできたが、公正・公平を実現し、地域の人々の暮らしを大切にするという観点から市民が果たすべき役割はより重要性を増している。

NGO による国際協力活動が活動の領域、質ともに着実に拡充しつつある一方で、世界各地の状況を知り、地球規模の問題と地域での課題のつながりに気づいて国際協力に関心を持つ人々も確実に増加している。福岡でも国際協力に関わる仕事に就きたい、NGO で働きたいという人が増えているほか、多くの人々が生活の中で自分らしさを発揮するためにボランティアとして国際協力活動に関わる機会を求めている。

このような中で必要とされるのは、市民が国際協力の分野で NGO などのスタッフとして従事し、あるいはボランティアとして活動するために必要な地球市民としての姿勢や態度、地球的課題に関する知識、実務的な技能などを修得する機会を提供することである。これまでは部分的、あるいは専門的な研修機会はあっても、市民を対象とした包括的・体系的な人財育成の機会はきわめて限定されていた。

3. 目的

本事業は、市民を対象とし、地球市民としての姿勢や態度、地球的課題に関する知識、実務的な技能などを修得するために講座、インターン研修、フィールドワークを組み合わせた包括的・体系的な人財育成プログラムを実施し、NGO や国際協力活動に関わるスタッフ及びボランティアを育成することを目的とする。

※本事業では、スタッフとは有給で業務に従事する人、ボランティアとは無給で業務に従事する人とする。

4. 内容

別冊「国際協力・NGO で働きたい人のための研修プログラム報告書（以下、別冊報告書と略す）」の通りである。

5. 成果

本事業「国際協力・NGO で働きたい人のための研修プログラム（以下、本研修と略す）」に参加したスタッフ研修コース、ボランティア研修コースの各 10 名のうち、各コース 6 名ずつ、計 12 名が修了した。

（修了要件：①全講座の 80%以上の出席とレポート提出、②インターン研修、及びボランティア研修における規定日数/回数（インターン研修：15 日、ボランティア研修：5 回）以上の出席と日誌の提出）

貴団体への本事業の企画・申請にあたり、本事業を通して期待される成果を以下に示す点線括弧内のように予定していた。

以下、成果の評価を行うために、評価委員会を立ち上げ、本事業の成果に関して検証を行った。その検証結果を「評価」として記す。

また、評価委員会において評価を行う参考にした別冊報告書の該当ページ番号を明記しておく。

【短期的な成果】（１）

スタッフとしてNGOの業務に従事するのに十分な基盤的能力を有する人財を養成できる。

「評価」（参照：別冊報告書 P19-26）

当初、企画段階においてイメージした成果には及ばなかったが、確かな進歩は見られた。基盤的能力とは、NGOの業務において必要とされる知識的な部分や具体的な事例を知り活動に関して戦略的・包括的視野をもつことを主にさす。この知識や具体的な事例に関しては、本研修における国際協力・NGO連続講座やマネジメント講座などの充実した講座により、受講生は十分な知識を得ることができた。

【短期的な成果】（２）

修了生は自らNGOを設立したり、NGO以外で国際協力活動に従事したりするために必要な能力も修得する。

「評価」（参照：別冊報告書 P27-32）

本研修を通して、スタッフ研修コース生、ボランティア研修コース生の中から1名ずつ、近々NGOを立ち上げようとしている。

また、現在、本研修の20名の受講生のうち、その約半数にあたる9名が当ネットワークの関連団体を中心に、ボランティアとして活躍している。また、これらのことから国際協力活動に従事するために必要な能力を修得できたか、もしくは今後修得していく可能性が高いといえる。

【短期的な成果】（３）

生活のための仕事をもちながらボランティアとしてNGOなどで国際協力活動に関わるために必要な実践的能力を有する人財を養成できる。修了生は事業や運営の全体像を把握した上で自らの考えを生かそうとする積極性を身につける。

「評価」（参考資料：別冊報告書 P48-51）

実践的能力とは、マネジメントにおいて団体活動に関わり、その団体のミッションに資することができる能力のことを意味しているが、本研修を通してこの能力をほとんど養成することができなかった。

その原因としては以下の3つが考えられる。

- ① 本研修の受講生を選考する段階で、当初予定していた受講生の傾向と実際の受講生の傾向との間に少なからず隔たりがあったこと
- ② ①の理由から結果的に講座のカリキュラムに無理があり、講座が多く受講生にとって理解しにくいものであったこと
- ③ ボランティア研修、インターン研修が当初期待していたような実践的能力におけるスキルアップに結びつくものではなかった。この原因として受け入れ先の団体との間に事前に十分な話し合いがもたれておらず、またボランティア研修、インターン研修ともに全研修過程において受講生に対する運営側のフォローアップが十分なものでなかったこと

などが挙げられる。

また、事業や運営の全体像を把握することは、長期的な過程においてある一つの団体との関わりの中で修得されるものと考えられるので、現時点において評価委員会はそれに関して評価することができない。しかし、上述したように現在多くの受講生が、当ネットワークに関わりがある各団体を中心に活動しているため今後は受講生が事業や運営の全体像を把握した上で自らの能力や考えを活かしながら積極的に活動に参加してくれることが期待される。

【短期的な成果】（４）

既にスタッフとしてあるいはボランティアとして NGO で活動している人の能力を更に向上させることができる。

【評価】（参考資料：別冊報告書 P40-44、P48-51）

受講生の中には、既にスタッフとして NGO で働いていた方が 1 名、ボランティアとして NGO に関わっていた方が 4 名、そして青年海外協力隊経験者が 1 名いた。

この 6 名の受講生に絞り本成果に関する評価を行う。この能力とは、主に実務を行うために必要な能力と考えられ、この能力の向上は主にボランティア研修コース生においてはボランティア研修において、またインターン研修コース生においてはインターン研修において向上されべきものと考えられる。しかし、【短期的な成果】（３）の評価のなかでも述べたように、両研修ともに実践的能力の向上につながるものではなかったため、本成果に掲げられている能力の更なる向上はあまり望めなかったといえる。

【長期的な成果】（５）

NGO の活動基盤が充実する。

【評価】

先述の通り本研修の受講生のうち 9 名が、当ネットワークの関連団体を中心にスタッフ、またはボランティアとして活動している。このことから NGO の活動基盤は層の厚みを増したといえる。また、本研修を通して国際協力活動を行うにあたって必要な基盤的能力を身に付けた受講生が、さらに国際協力の現場で実践的经验を積むことで、今後の NGO の活動基盤はより一層充実したものになることが期待される。

【長期的な成果】（６）

地域における国際協力活動が拡充する。

【評価】（参考資料：別冊報告書 P7-8、17-18、P25-26）

本事業を行う以前から FUNN が大切にしている 1 つのテーマがある。それは「地域とのつながり」である。国際協力といえば、緊急の物資支援など海外で行う国際協力活動も多く、また重要であることは確かである。しかし、海外で行う国際協力活動と言えど、実際に活動を行う場所というのは、国内外を問わず、各地域であり、その「地域とのつながり」を大切にしない限り、国際協力活動を行うことも不可能である。このような意味で、本研修の受講生には「地域とのつながり」の重要性を伝えるべくプログラムされていた。本研修の最初の講座を八女郡黒木町で農林業を通して地域づくりを行っている農林業体験施設「四季菜館」で行ったのも、そのような意図に基づいている。

本研修中や終了後に、多数の受講生から「国際協力は身近なところからできるんですね。」という感想があったことは、これからの地域における国際協力活動の充実にとって明るい兆しであるといえる。

※貴財団への活動助成の申請書提出に際し、期待される成果の一項目として「期待できる社会的な波及効果」として以下の3つを記載していた。しかし、これらの波及効果に関して客観性を与えることができるだけのデータを本委員会は収集することができなかった。したがって、本委員会はこの社会的な波及効果に関して評価を行うことはできなかった。

【社会的な波及効果】（7）

自らが住んでいる地域から世界のさまざまな問題の解決のために活動する人材を生み出す。

【社会的な波及効果】（8）

地域づくり、地域のさまざまな課題への国際協力アクターの関わりが深化し、社会の活性化に貢献する。

【社会的な波及効果】（9）

地球規模の問題解決への行動が促される新たな市民社会の形成に寄与する。

6. 反省点

●本事業受講生に対して講座ごとにアンケートを実施し、本事業終了後に定量分析をすべきだった。

【参照】[事業評価システム2000（特定非営利活動法人 コミュニティ・シンクタンク「評価みえ」）]

●事業終了後の評価作業を含めた事業の立案ができていなかった。

●ボランティア研修、インターン研修において、FUNN事務局と研修受け入れ先との連携が十分とは言えず、研修内容や研修期間に関して不備が見られた。

●本事業の研修名である「国際協力・NGOで働きたい人のための研修プログラム」に関して、実際には福岡県内において国際協力・NGO分野で就職できる団体は極めて限られているにも関わらず、研修名からすれば、市民に対し、国際協力・NGO分野に優位に就職できるかのような印象を与えるものとなっていた。

●NGOなどが専従職員としてどのような能力をもった人材を雇用したいのかということに関して、事業実施前に十分な調査ができていなかった。結果としてそのような能力を有する人材を育成することができなかった。

7. 総括

毎年行っているNGOカレッジなどの事業規模を超える、福岡では初めての大型養成講座であったと言えるが、様々な事情から、その企画、立案、実行、評価すべてに一貫して関わるスタッフがいなかったことには悔いを残すことになった。

しかし、逆の見方をすれば、特定の人の手によらずこれだけの事業を成し遂げたのは、組織としての結束を確認する結果にもなった。そうした人事状況の中で、各々が持つ限りの情熱と責任で関わってきたのもまた事実である。

現在、団体内部の総論としては「おおむねの達成とは言えないまでも、一定以上の成果をあげている」という表現では異論のないコンセンサスを形成している。

この評価書にはそれなりに細かい事情を反映することが出来たので、次回同事業に携わる者には熟読されることを本評価委員会は強く期待するものである。